

「情報労連 愛の基金」助成への御礼

NPO法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

代表理事 岩佐 幹三

「情報労連 愛の基金」今年度の助成を決定していただきありがとうございました。

被爆者の全国組織や各都道府県の活動記録や証言集の収集・保存・整理が大きくすすみ、いよいよこれらをインターネット上にデータベース化する「デジタル・アーカイブ化」に取り組めます。機材メーカーよりスキャナーの寄贈とシステム・ルール作り、スキャン作業教育のボランティア支援など多大なご協力をいただきます。歴史遺産継承に関わる社会貢献活動として位置づけていただいたものです。また首都大学東京の渡邊英徳研究室との共同で「未来につなぐ被爆の記憶」プロジェクトを立ち上げ、全国どこからでもアクセスできる参加型デジタル・アーカイブの制作をめざします。これは、被爆の体験を後世に遺すことを目的にインターネット上に「被爆体験の資料室」を作る活動として、全国で取り組みを展開する予定です。収集した資料や当会の活動のインターネット上の情報は、国立国会図書館（関西館）のインターネット収集保存事業の対象として、将来にわたって保存していただき一般に公開されることとなります。

ここに至ることができましたのは、「情報労連 愛の基金」の助成をはじめ多くの方々のご支援の賜物と、心より感謝申し上げる次第です。

この会も5年を経てようやく、社会的に貢献できる見通しが立つようになってきました。これからが「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産の継承センター」設立の本格的な取り組みとなります。引き続き、貴基金のご支援をいただければ幸甚に存じます。今後ともよろしく願います。

以上